



第五十三回関東甲信越静地区子ども会育成研究協議会を終えて
 実行委員長 岡田 政枝

令和三年十月十七日関東甲信越静地区子ども会育成研究協議会新潟大会がホテルオークラ新潟で開催されました。私たちはこの大会に向けて平成三十年に実行委員会を立ち上げ、「大会スローガン」・「キーワード」・分科会内容などについて、何回かの実行委員会を開き、内容を検討してまいりました。

各分科会では、事例発表をし、その後、グループ協議をし、最後に代表者が報告をすることにしました。本県の開催に向けて静岡大会（熱海市）には、多くの実行委員の方々から参加をしていただき、新潟大会を迎える準備を進めてまいりました。



しかし、令和二年に入り、突然にして新型コロナウイルス感染症が広まり、その影響で三月～六月にかけては、すべての活動が中止となりました。会議もできなくなり大変戸惑いました。



その後、時は流れ、研究協議会の内容を見直し、感染防止策を十分に整えたうえで開催するため、「キーワード」を「新しい生活様式を取り入れた安全安心な活動への挑戦」未来につなげよう！私たちが子ども会ができること」に変更し、参加者人数の半減や一日日程での開催となりました。

令和三年八月末、新潟県にはコロナ警報が発令され、二週間の活動中止が出され戸惑いました。そんな中、九月五日ホテルオークラ新潟にて三役部長監事責任者が集まり、安全を考慮し、県をまたぐ移動は行わないことを基本に、県外の参加者は

オンライン参加とし、会場への直接の参加者は、県内の人のみとする事などの決定が行われました。今回の大会は、コロナ禍の中、内容が二転三転し、オンライン開催となるなど異例の大会となりました。最後に、本大会に参加されたすべての皆様、記念講演を行ってくださった講師先生、事例発表者の皆様、実行委員の皆様、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

今後の予定

- 県子連第二回理事会（長岡市中央公民館）さいわいプラザ）十二月五日（日）
- 関フロ会長・事務担当者会議（新潟東映ホテル）一月十五日（土）
- 社会教育懇話会事務局長会議・県事業説明会（県立推進センター）二月三日（木）
- 県子連第三回理事会（新潟市東区プラザ）三月六日（日）
- 県子連だより第三十七号発行三月十一日（金）
- 県子連第三回JL中級研修会（長岡千手コミュニティセンター）三月十二日（日）



新潟県教育庁生涯学習推進課
副参事・社会教育主事 笠原 崇史

未来の子どもと地域のために 子ども会に期待すること

新型コロナウイルス感染症により様々な制限がある中、子どもが地域で安全安心に過ごし、多様な体験や交流ができるよう御尽力されている皆様に、心から感謝いたします。

近年、子どもを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化し、教育改革、地方創生等の動向からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されています。子どもや学校が抱える課題の解決や豊かな成長のためには、社会総掛かりでの教育の実現が不可欠です。

県教育委員会では、学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組む「コミュニティ・スクール」、学校と地域がパートナーとなって行う「地域学校協働活動」、これらの取組を推進しています。令和三年度には県内二三市町村、全小・中学校の約四五%がコミュニティ・スクールとなっており、地域と学校が目標を共有し、より多くの地域住民等が参画して継続的・安定的に実施することが求められています。

子ども会関係者の皆様には、これまでの取組やつながりを生かし、地域と学校をつなぐ人材として、コ

ミュニティ・スクールや地域学校協働活動に関わってくださることを願っています。

文部科学省は、青少年の体験活動などの効果を経年的視点で分析した結果を公表しました。小学生の頃に体験活動の機会に恵まれ、異年齢の人とよく遊んだり、自然の場所や空き地等でよく遊んだりした経験に恵まれていると、高校生の頃の自尊心や外向性、精神的な回復力は家庭の経済状況などに左右されず高くなる傾向があるそうです。

子どもたちの健やかな成長のためには、異年齢集団の中で多様な経験を意図的・計画的に行うことが大切であると言えます。まさに、子ども会活動そのものではないでしょうか。

新しい生活様式が求められる今、「不易と流行」を見つめる良い機会です。子どもたちの未来を見つめるとき、子ども会活動のこれからの方向も見えてくるものと思います。子どもたちと地域の明るい未来のために、ともに頑張っていきましょう。

ジュニア・リーダー中級研修会

第一回

○期日 令和三年六月二十七日(日)

○会場 ゆいぽーと (新潟市青少年センター)

○研修内容

- ①アイスブレイク(レク)
- ②子ども会活動の意義と進め方
- ③安全啓発 (KYT) について

○参加者

高井 優奈 今野 愛夢花



第二回

○期日 令和三年十月三日(日)

○会場 長岡市宮内コミュニティセンター

○研修内容

- ①ジュニア・リーダーの役割
- ②キャンプファイヤー (歌・スタンツ)
- ③キャンプファイヤー (歌・スタンツ)

○参加者

高井 優奈 今野 愛夢花
加藤 愛美 羽鳥 楓花



下越地区

米倉太鼓をつなぐ

新発田市米倉子ども会
六年 坂本 迅



僕の住んでいる地域では、米倉太鼓という伝統芸能があります。小学校の三年生になると入ることができ、六年生までやります。メンバーはだいたい二十〜三十人くらいいます。中学生以上でもやりたい人は大人の部で続けることができます。活動は夏がメインで、夜に集まって練習しています。子供の部で練習している曲は六曲あり、どれもとくちようがあっておもしろいです。

太鼓をひろうする一番大きい場所は新発田祭りです。観てくれる人が多いので緊張しますが、上手に叩けると気持ちが良いです。また、地元の米倉祭りでは、大きいトラックの上でも太鼓を叩きます。米倉をトラックでゆつくり移動しながら演奏するの、足の悪いお年



寄りでも家の前で観てもらえます。最後は神社に到着して、お参りしてから演奏します。去年と今年祭りが全部中止になってしまいが残念です。祭り以外では小学校の行事の中で、体育館のステージで演奏することもあります。いつも遊んでいる友達など児童が全員観ているので、祭りよりもきちょうします。その他、老人ホームなどから依頼されて演奏しに行くこともあります。喜んでくれるので自分もうれしくなります。米倉太鼓は僕のお父さんも小学生の頃にやっていた。その時から代々受け継がれて、姉もやっていたし、弟も今一緒にやっています。今まで米倉太鼓を叩いてきた小学生は何百人もいると思いますが、その中の一人として観てくれる人に喜んでもらえる演奏を受け継いでいきたいと思っています。

中越地区

夏の行事(川の生き物調査)

見附市田井町青少年育成会
幹事長 清水 勝也



今年も昨年に続き、新型コロナウイルスウィルス感染症拡大防止のため、多くの行事が中止になりました。今回は屋外活動であり、親子で感染防止策を徹底した中で、八月七日(土)に田井川・頭無川の生き物調査を行いました。田井町は小学生十名、中学生五名の少人数の子ども会ですが、この日は親子総勢十六名で実施しました。連日の晴天で水量は例年より少なかったのですが、いつもは見ているだけの川の中に入るのは、とてもワクワクする体験。はじめは恐る恐る、慣れてきたら大胆に川の中を調査しました。低学年の子ども達は魚を見つかるのも捕まえるのも一苦労でしたが、魚とりに慣れている子どもたちは、どこに魚が隠れているかを知っており、網を仕掛けて追い込んだりしながら協力して捕まえました。

子どもたちは、どこに魚が隠れているかを知っており、網を仕掛けて追いつきながら協力して捕まえました。



その後、公民館にて、ハヨ、ドジョウ、ハジカ、川エビ、ザリガニなど、捕まえた魚等五十匹ほどを種

類ごとに分類しました。子どもたちに感想を聞くと、最初は水が思ったより冷たかったが川の中は気持ちよかった、魚の動きが速くて大変だった、エビを捕まえることができて嬉しかった等の声が聞かれました。ここ数年は猛暑で日中の屋外活動が危険であり、昨年からは新型コロナウイルス感染症のために大人数で集まることや話すことが制限されて、子ども達は夏休みでも家で過ごさなければならぬ状況が続いています。そんな中で、川の中に入るとの魚とりに親も子も夢中になり、朝早くから爽やかな気持ちで、楽しい時間を過ごすことができましたのではないかと思います。早く思いっきり元気に子どもたちが遊べるようになりますように…

佐渡地区

楽しかった子ども会

小木地区子ども会

三年 高津 瑞希

わたしの地いきでは、毎年花植えとお楽しみ会をしています。

まず花植えは春に地区の会館前に花を植えています。花のなえを三つ四つゆるいをえらんでみんな協力して植えていきます。植えたあとは水やりの当番を決めて交代で水やりをしています。夏のない日の水やりは大へんでしたが、花がきれいにさいていたの、かれないようにがんばりました。地いきの人たちがよろこんでくれているとうれしいです。

つぎにお楽しみ会では毎年色々なことをしています。昨年はコロナウィルスのえいきようで中止に



なつてしまったので一昨年のお楽しみ会について書きたいと思います。

一昨年は同じ地区に住む方を先生に石けん作りをしました。石けん作りは石けんをとかすところから始めました。とかした後に色やかおりをつけたりラメなどを入れました。何色かの色をつかうとブラーションで作れると教えてもらいやつてみるときれいにできました。ハートや星型、長方形など好きな型に入れました。石けんがさめる前に型に入れなくてはいけなかったのであつくて大へんでしたが、きれいでここにに入れてかためた石けんはものすごくきれいでつかうのがもったいないくらいでした。できあがった石けんを全部ならべてみると色々な色や形があつてとてもきれいでした。今はコロナウィルスであまり活動ができないけれど、またできるよふになつたらみんな楽しんでみたいと思います。

上越地区

コロナ禍で…

三和区子ども会連絡協議会

代表 大坪 寛

地域で最近の子ども会活動の状況を聞いたところ、コロナが流行し始めた頃から活動を、全て取りやめたところが多いようです。

私も小学校の近くに、住まいを構えています。一時は学校から子どもが消え、グラウンドからも鬼ごっこやサッカーをする子どもの姿が消えました。何だか火が消えたようでした。町内の公園や地域内も同様です。

子どものエネルギーは、どこに消えたのか、再び勢いよく燃やそうか。コロナ禍で子どもの行動や活動が制限されていますが、一日でも早く元気な姿を取り戻してあげたいと思います。



子ども会と地域や親が協力して、感染症対策を施し、ルールを守り、子ども会活動を再開し、いろいろな体験をし、大人になる準備をさせたいと思います。

また、最近、子ども会離れが進んでいます。コロナが拍車をかけて、子ども会が無くてもやっていたのが当たり前になりつつあります。子ども会を辞めてしまふ所も出て来ました。子どものため無く、親の都合でやめてしまふます。また、少数でも頑張っている子ども会もあります。そんな会は、育成者が元気で一生懸命です。活気もあります。

子ども会活動は、子どもの成長にとつて大切であり、続けることが一番大事かと思ひます。子ども会の育成者が地域や学校と連携しながら、知恵を出し合い、子どもの明るい未来のために頑張りたいと思ひます。

編集後記

新型コロナウイルスの影響により一年延期となつた関フロ新潟大会を、オンライン参加等により成功裏に終えることができました。これもひとえに、本大会にかかわられましたすべての皆様のお陰と感謝いたしてあります。最後に、本たよりに原稿をお寄せいただきました皆様に心より御礼申し上げます。

(文責：板垣)

【編集発行】

一般社団法人
新潟県子ども会育成連合会
〒951-8111
新潟市中央区白山浦一三〇〇
電話 〇二五-三三〇五九八
FAX 〇二五-三三〇五九二